

Know 業

～ベジタブルであなたも笑顔に～

天谷ゼミナール

稻尾大輔, 漆原秀平, 清水健一, 窪内慎吾, 大原貴子, 保田秀美, 山田真菜

指導教員 天谷永

創価大学経営学部 経営学科 天谷ゼミナール

1. 背景

八王子の農業は現在、都内随一の農業生産高を誇っている。なぜなら、八王子は農地面積が広く農業がしやすいからである。しかし、八王子市は農業に関する問題を抱えている。それは後継者不足である。後継者不足によって農家戸数は減少しており、平成2年には2168戸であったのに対して、平成27年には1198戸まで減少してしまっている(図1)。このように農業に関する後継者不足というものは深刻化してきているのである。なぜ後継者不足という問題があるのかというと、初期費用に莫大なお金がかかるということや、単純に若者の農業に対する興味のなさが原因と考えられる。そのため私たちは、若者たちに農業について興味を持ってもらい、一人でも多く後継者不足に貢献してもらいたいと考えた。

	農家数(戸)				
	総数	専業	第1種兼業	第2種兼業	(内自給的農家)
平成2年	2,168	96	212	1,860	961
平成7年	1,715	155	131	1,429	827
平成12年	1,529	163	90	1,276	794
平成17年	1,435	190	51	1,194	856
平成22年	1,320	178	58	1,084	829
平成27年	1,198	168	44	986	805
平成27年 東京都合計	11,224	2,613	444	8,167	—

(2015年農林業センサス東京都分調査速報)

図1 八王子の農家戸数の推移

2. 提案

提案として二つ挙げる。

一つ目に、共同直売所を八王子駅前や、若者・主婦層の多く通る場所につくることを提案する。道の駅八王子滝山の共同直売所のノウハウを用いて、地元野菜を売る販路をつくりながら、若者の

地元野菜の認識を高める。消費者八王子野菜や農業、若者が八王子ブランドの野菜を認識するきっかけとなる。また、野菜+αになる手軽な調理法や、独特の味のアピールをすることで、実際に野菜を手にするアプローチをする。

二つ目に、畑を使用したイベントの開催、農家でできた野菜などを学校で売るという提案をする。イベントの内容としては、留学生との交流会やたき火BBQ、イモ堀りプロジェクト、農業体験、婚活などである。このようなイベントを通して少しでも多くの人に農業の楽しみを味わってもらうことが目的である。

一方、野菜など農家でできたものを道の駅だけでなく学校で売ることによって、学校帰りにわざわざスーパー・マーケットに寄らなくても気軽に食材が買えることになると考える。

また、市民農園の活用もある。八王子には市民登園を営む家庭がある(図2)。それを含めイベントと関連付けて市民農園というものをアピールする。八王子には市民農園ができる範囲が広いため、市民農園をすることは難しくはないのである。

3. メリット

一つ目の共同直売所の拡大は、若者や主婦層が八王子ブランド野菜を知るきっかけとなる。直売所を通して地元農家の顔や気持ちを知り、野菜に対する関心を高めることができる。また、農家は販路を確保できるため、経営の安定につながる。直売方式の販路をつくることで、消費者への地元農産物の供給をすることができる。

二つ目のサービスでは、学生は野菜を買いに行く手間が省け、低価格で野菜を手に入れることができる。そして家に野菜がないという状態を減らすことができる。不足がちな野菜を常に摂取できることを図る。また、農家にとっても学生の多い八王子で販売するからこそ利益もでると予測する。さらに、農家を営んでいる人と実際に関わることで、市民農園がどのようなもので、どのようなメリットがあるのかを本人が知ることで、農家の関心を湧くことを促すことができると考える。

番号	名称	所在地	区画数	備考
1	由木	東京都八王子市下柚木2-19-20	51	なし
2	久保山	東京都八王子市久保山町1-33-1外	95	なし
3	寺田	東京都八王子市寺田町1113外	64	なし
4	散田	東京都八王子市散田町4-12（散田町4-316-9の内）	58	なし
5	諏訪	東京都八王子市諏訪町386外	56	なし
6	緑町	東京都八王子市緑町445-1外	45	なし
7	越野	東京都八王子市越野25-8	36	なし
8	東中野	東京都八王子市東中野1502外	56	なし
合計			461	なし

図2 市民農園実施の家庭

4. 課題

このプロジェクトの課題点としては、本当に学生は野菜不足であり購入してくれるのか、という点である。野菜のほかに必要なものがあればスーパーマーケットに行き一緒に買う可能性がある。よって、学校内で買いやすくなつても買ってもらえるような工夫が必要になるかもしれない。しかし、学生だけに買ってもらうとなると、制限があるので一般の家庭にも購入してもらうにはどうすればよいのか考慮すべきである。

さらに、農業を営むにあたってどのような需要があるのか、野菜の販売に至るまでのコストが不透明な分が多いため、採算がとれるかの問題がある。

5.まとめ

以上のようなことから、誰でも気軽に楽しく参加可能なイベントや学校を利用したサービス、

共同直売所の拡大によって、若者に農業の楽しさを知つてもらい後継者不足を改善できるきっかけになるとを考えている。

参考文献

最近注目の「貸し農園」

<https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/31055>

八王子農業の現状と課題

http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/sangyo/004/001/007/p014367_d/fil/keikaku-dai2.pdf

子供が農家を継がないのは「儲からないから」なのか

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1620>

「都内初の「道の駅」を農家が儲かる販売拠点に」（2017年10月20日 閲覧）

http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/pdf/2-13tokyo.pdf

市民農園 | 八王子市公式ホームページ（2017年10月19日 閲覧）

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/sangyo/004/001/003/p006544.html>